

平成 26 年度第 5 回 鎌ヶ谷市子ども・子育て会議 会議録

1 日時 平成 26 年 8 月 21 日 (木) 14:00～15:30

2 場所 鎌ヶ谷市役所 市庁舎 6 階 第 1・第 2 委員会室

3 出席委員

山本幸子会長、西智子副会長、引田満委員、加郷由里子委員、長谷川美樹委員、松村幸江委員、中村弘委員、菊池修次委員、石神市太郎委員、長谷川その委員、榎本美紅委員、鈴木朗子委員

4 事務局

望月健康福祉部長、斉藤健康福祉部次長（こども課長）、鈴木保育支援室長
鈴木こども発達センター所長、菅井健康増進課長、大野こども支援室長、
小笠原こども支援室長補佐、中条道野辺保育園長、藤嶋庶務係長（障がい福祉課）、
星主査（保育支援室）、安田主事（保育支援室）、乗田主任主事（こども支援室）、
館岡主査（健康増進課）

5 記録 小笠原

6 傍聴者 1 人

7 議題

- (1) 子ども・子育て支援事業計画（必須記載事項）について
- (2) 送迎保育ステーション事業について
- (3) その他

8 報告事項

- (1) 利用者負担検討部会委員の指名について
- (2) 次回の会議日程等について

9 配布資料

- 資料 1 子ども・子育て支援事業計画（必須記載事項）
- 資料 2 送迎保育ステーション事業
- 資料 3 鎌ヶ谷市子ども・子育て会議条例施行規則
- 資料 4 平成 26 年度第 4 回子ども・子育て会議 会議録
鎌ヶ谷市子ども・子育て支援事業計画体系案

10 会議内容

《議題》

(1) 子ども・子育て支援事業計画（必須記載事項）について

- ① 事務局が資料1に基づき説明
- ② 質疑応答

委員 資料1の16ページ 乳児家庭全戸訪問事業については、訪問回数は1回となるのか。

事務局 訪問の中心となる保健推進員としては1回の訪問となりますが、その後の対応は、必要に応じて地区担当の保健師が訪問することになります。

委員 特に初めての出産や転入して間もない方には、数回訪問又は電話をするなど、きめ細かい対応をすることにより、子育て支援に関する情報など、より聞きやすい体制になるのではないか。

事務局 子ども・子育て支援事業計画に記載する事業として対象となる事業は、乳児家庭全戸訪問事業だけとなりますが、その他の母子保健事業において、新生児訪問や地区担当保健師による支援などを行っており、実際には、数回の訪問や電話による相談など、継続的に行っているところです。

事務局 委員の指摘のとおり、乳児家庭全戸訪問事業の記載だけでは、その他の母子保健事業との連携が不明となるため、イメージ図又は質（サービス）の向上策の欄に、その他の事業との連携がわかるよう明記するようにします。

(2) 送迎保育ステーション事業について

- ① 事務局が資料2に基づき説明
- ② 質疑応答

委員 資料2の2 送迎保育ステーション事業に対する市の考え方では、既存施設の需要と供給の状況から先送りするものとしていますが、自分の考え方を説明します。

私の考え方は、既存施設と今後新設する施設の事を踏まえて提案していることから、市の考え方とは相違が生じています。

送迎保育ステーション事業を提案した理由は、駅の周辺に小さな保育施設をいくつも整備するのではなく、預けられた子ども達が、快適にのびのびと育つよう、郊外にも保育所を整備してほしいという趣旨からで

す。

そのため、郊外に保育所を整備するデメリットとしては、保護者の送迎時間がかかること、送迎手段がないため、保育所の定員を確保できないおそれがあることから、送迎保育システムを導入することにより、その解消ができるものと考えたからです。

次に、送迎システムを導入するにあたってのメリットとしては、送迎システムの対象をすべての施設にすることにより、今まで、送迎の関係から家や駅の近くの保育所を選択せざるを得なかったり、保育所が空いていないからといった理由で限られた保育所を選択せざるを得なかったりした保護者が、すべての保育所の中から選択することが可能となり、選択の幅が広がると考えたからです。

また、駅前に送迎保育ステーションを設置することにより、今までの送迎時間の負担軽減を図ることや、都内に働く世代などが子育てしやすいということで、鎌ヶ谷市へ転入してくるといった効果があるものと考えたからです。

一方で、市の考え方では、すべての施設を対象にすることにより、経費的な効果と多くの時間が必要ということでした。そうであれば、今後新設する郊外の保育園からモデルケースとして送迎システムを実施し、その効果によって、対象施設を増やしていくという考えは、いかがでしょうか。

また、実際に利用する保護者の意見を聞くようなアンケート調査を実施してほしい。

委員 送迎システムは、保護者の支援には効果があると思いますが、子どもにとって、あまり動いたりせず、近くの地域の保育園の方が良いのではないかと考えます。また、子どもにとっては、送迎バス、園の受け入れ、日中といった多くの保育士で対応するのではなく、できる限り同じ保育士で対応した方が良いと考えます。

委員 送迎システムの導入は、基本的には賛成しますが、子どもの居場所をどうするかといったことなど、市の受け入れ態勢や制度設計が難しいものと考えます。

委員 送迎システムは、将来的には良い制度だとは思いますが、現状ではいろいろな規制などがあり、導入は厳しいものと考えます。将来的に、導入の要望が多くなつた際には、検討すべきと考えます。

委員 船橋市の社会福祉法人では、独自に送迎バスを保有して実施していることから、このシステムを導入することも可能性のある一つ的手段ではないかと考えます。

委員 送迎保育ステーション事業は、子育て支援の一つとして、肯定的な考えです。しかしながら、鎌ヶ谷市の保育園の受入れ状況の数値を踏まえると、あえて5か年計画の中に位置付けなくても良いものと考えます。

また、この事業は、他市において10年位前から積極的に導入された理由として、保護者の利便性を重視していました。

これからの子育て支援策は、家の近くの保育園や幼稚園において子どもが育ちながら、ファミリー・サポート・センター事業などを充実させ、地域の人たちと連携するような送迎システムを構築することが求められているものと考えます。そうすることによって、子ども達は、地域の小学校や中学校で育ち、地域の親子の顔が見える関係を保ちつつ、地域と連携して育っていくものと考えます。

今後5年間は、まずは待機児童対策と地域との関係を解決し、送迎保育ステーション事業に関しては、決してここで切り離さず、検討課題として意識し、今後必要が生じた際には、詳細な事業内容を検討すべきと考えます。

委員 様々な意見が出ましたが、送迎保育ステーション事業に関しては、今回の子ども・子育て支援事業計画には位置付けず、地域連携の強化、ファミリー・サポート・センター事業の充実などを図っていただきたいと思えます。

また、事務局においても、この委員提案を継続的な検討課題として繋いでいただきたいと思えます。

事務局 この会議の答申の際には、答申書と計画案を示すこととなりますので、送迎保育ステーション事業に関しては、長期的な視点から検討課題である旨を明記するような答申書の素案とすることとし、次回の会議で提案させていただきます。

《報告事項》

(1) 利用者負担検討部会委員の指名について

① 利用者負担検討部会委員の指名について、資料3の鎌ヶ谷市子ども・子育て会議条例施行規則に基づき、会長から次の7名を指名する。

ア 西 智子 委員

イ 加郷 由里子 委員

ウ 石神 市太郎 委員

エ 長谷川 その 委員

オ 榎本 美紅 委員

カ 中井 努 委員

キ 山本 幸子 委員

② 利用者負担検討部会の会議は公開とする。

(2) 次回の会議日程等について

次回の会議は、計画案の全体を示したうえで、10月下旬頃を予定

会議録署名人署名

以上、会議の経過を記載し、相違ないことを証明するため、次に署名する。

平成26年8月27日

氏 名 長谷川 美樹

氏 名 松村 幸江